

.....

**あいつ創生市民会議 概要**

.....

## I. 趣旨・目的

第7時総合計画の策定にあたり、市民の意見やアイデアを計画に取り入れることを目的として「あいつ創生市民会議」を9回開催した。

「ふくし分科会」、「ひとづくり分科会」、「しごとづくり分科会」、「まちづくり分科会」、「きょうどう分科会」の5つの分科会にわかれ、将来に向けた市のまちづくりについて様々なテーマにより意見交換を実施した。

## II. 開催概要

	日時	開催場所	出席委員	テーマ
第1回	平成27年5月29日 18:30~20:30	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	33名	「情報共有等」
第2回	平成27年6月17日 18:30~20:30	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	31名	「まちの強み再発見！」
第3回	平成27年7月1日 18:30~20:30	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	34名	「私が考える理想のまち」
第4回	平成27年7月29日 18:30~20:40	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 研修室2、3	26名	「女性が住んでみたい、住み続けたいまち」
第5回	平成27年8月25日 18:30~20:30	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	23名	「人と人とのつながりの再生」
第6回	平成27年9月30日 18:30~20:30	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	26名	「ストップ人口減少！」
第7回	平成27年10月28日 18:30~20:40	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	28名	「WITH 市役所（第1回）」
第8回	平成27年11月11日 18:30~20:20	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	18名	「WITH 市役所（第2回）」
第9回	平成28年1月13日 18:30~20:20	生涯学習総合センター（會津稽古堂） 多目的ホール	16名	「まちづくりのコンセプト（キャッチフレーズ）提案」

### III. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第1回	平成27年5月29日(金) 18:30~20:30	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	市民会議の目的・意義 総合計画について 市の取組 分科会の編成 など	33名

前半は、会津若松市長のあいさつの後、市民会議の目的や意義、総合計画の内容、現在の市政運営の方針などについて情報を共有し、後半は、分科会ごとに、委員の自己紹介や議論したいテーマなどについて、ワークショップ形式で意見交換をおこなった。

委員の参加人数は33名と、キックオフの熱気にあふれる雰囲気での開催となった。委員の自己紹介を兼ねたグループワークでは、関心事項について多様かつ多くの意見が出されたため、当初の予定時間をオーバーしての終了となった。

会場においては、まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、スマートシティ、市民アンケート結果についてのパネル展示を実施した。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 市長あいさつ(室井市長)

##### (3) 配布資料説明

- ① 第6次会津若松市長長期総合計画について(企画調整課 邊見副主幹)
- ② 第7次総合計画の策定について(市民会議の位置づけ)(企画調整課 邊見副主幹)
  - ・市民会議で出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。
- ③ 会津若松市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略について(企画調整課 邊見副主幹)
- ④ 今後の進め方について(日本経済研究所 鈴木)
  - ・市民会議では、それぞれの政策分野で議論を深めていくため、分科会を編成する。
- ⑤ 質疑等
  - ・若い世代にもっと参加してもらえよう情報発信していくべき
  - ・策定だけでなく、今後の事業の評価にも参加していきたい など



##### (4) グループワーク(進行役:日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① 「関心事項、何について話し合いたいか」などについて、各自ポストイットに記入
- ② 自己紹介とともに発表

## グループワークの成果 第1分科会「ふくし」

- 低所得者への就労支援
- 介護者の心の負担を軽くできる様な手伝い
- 医療・介護資源の確保
- 予防介護 40代からのセカンドステージに向けての準備への促進
- 会津若松市民はもとより全国の高齢者の方々が魅力を感じ住みつつまちづくり
- 食を通じて健康づくりの促進 子どもの朝食
- 医療・介護の連携
- 高齢者が元気に暮らせるまちを創生したい
- 健康寿命の延長
- 健康長寿者を増やす
- 年金対策
- 高齢者と若者をつなぐシステム
- 医療情報の共有
- おくすり手帳を確実に手持ちの薬をなくす。
- 生活弱者に優しい町づくり
- 高齢者、障がい者が安心して歩ける道づくり（日本一を目指す）
- ふりこみ「さぎ」の防止対策
- 出産施策の充実
- 子ども達の総合遊び場を作る
- 障がいのある人が地域で自立して生活できるような制度やしきみ
- 他の市町村の先頭をゆく公的支援
- 差別や偏見のない社会

## グループワークの成果 第2分科会「ひとづくり」

- 司書教諭の充実
- 町中が図書館
- 会津に総合大学を
- 電車通学の生徒達の居場所
- 文化をできる町に特に美術館
- 庁内会等小さな単位で共同で行動できる場の提供
- 自然に共生できるまなびの場を
- スポーツを通じて世代間の交流を
- スポーツ、レクリエーションを振興する
- 母親が75歳！私の様な中間世代の役割は？
- 世代間の交流をしたい
- 孫が生まれ、市の政策に興味を持った
- 政策はいろいろ考えられているようですが広く知られていない
- 地域の輪が保てるような（コミュニケーション）地域づくりをしたい
- 守ることは守る。やぶることはやぶる

### グループワークの成果 第3分科会「しごとづくり」

- 公共建物の改築は必要ですがその個企業、法人が自立しない所は廃棄が必要では？
- 若者の定着する街づくり
- 市民目線の行政
- 交通体系の見直し
- 自立（参加）できるまちづくり
- 付加価値の高いまちづくり
- 17市町村民族芸能（ひょっとこ踊り、桧枝岐かぶき。バリ島参考に）
- 伝統（漆器、酒）など感じられるまち！
- 伝統（工芸）を身近に感じ楽しめるまち
- 雪が好きになるには？
- 会津漆器のブランド力UP！！
- 若い人が働きたいと思える仕事がほしい！
- 映画館もないよね。
- 食べ物屋はいっぱいある
- 会津大学のICT業務って会津の内ではなく、県外の企業だよな。
- 本当にICTが必要？
- 何にでもICTはかかっているでも基盤だよな。
- 情報の共有化
- お年寄りから子供までのIT教育
- 会津の冬の活性化 11月中旬から4月中旬 150日。どうしたら誘客できる？
- 観光は総合産業 1都6県 4,200万人 条件は会津一番
- 一年を通し、たくさんの観光客であられるまち
- 学修旅行のコース作り、立志、電力、観光
- 観光で誘客
- 観光場所が点在。城行って周辺でおしまい。
- 東山温泉を温泉街として歩いて楽しめる街に
- 東山ダム、外国
- 鶴ヶ城の魅力創出
- 世界の中の会津で見る視点

### グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

- ワカモノに刺激を
- スキのある街
- スマートな人が住む
- ポジティブなまちに！！楽しい議論を！！
- 人と自転車にも優しい街
- 花、緑があられる清潔感のあられる街
- 豊かな自然、水、空気、森

⇒続きは次頁へ

#### グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

- 助成金に頼らない経済
- 地域の小売をもりあげる街
- 技術をとりこみ、経済をまわす街
- 他の街とはひと味違う個性が光る街
- 豊かな教育、育成が出来る街
- 安全で安心なまち
- 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを
- 子育てしやすい町づくり
- 自給するまちづくり。エネルギー、食糧
- 食糧の安全安心確保
- 地域防災について平時の訓練について

#### グループワークの成果 第5分科会「きょうどう」

- 孤独死ゼロの町
- 2000 円で一泊できる宿
- バリアフリー世界一
- 外国人との交流（外国人から発信する町作り）
- みんな協力しあえるまちづくり
- 市民活動が活発なまちづくり
- 人材育成、リーダーシップがとれる人
- 人財育成
- 若い人中心のまちづくり
- 意識の改革
- 安心して子供を産み育てられる町
- チャレンジタウンを作る
- 子供達が愛せるまちにしたい
- 第6次長期総合計画がどのように具体化され、課題は何なのかについて学んでいきたい。
- 特に計画立案能力をどう高めていくか。それについて自分としては何ができるか
- 行政改革を推進し、効率的な行政運営
- ワークライフバランス・家庭第一で
- 男女共同参画に興味を持ってもらう
- 市民が積極的に政治に参加できるまち
- 課題解決のための協働のネットワークをいかにして作るか
- 連携・交流が盛んなまちづくり
- どういった社会資源との協働ができるか
- 子育てしやすい町づくり
- コミュニティづくり

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第2回	平成27年6月17日(水) 18:30~20:30	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	会津若松市の現況 会津若松市の良いところ	31名

前半は、会津若松市の現況について情報を共有し、後半は、分科会ごとに、会津若松市の良いところを出しあい、進行役が指定するアピール対象に対してPRするというワークショップを実施した。

グループワークでは、委員から食や自然、四季、歴史など会津が持つ魅力について多くの意見が出され、アピール方法についても具体的かつ魅力的な提案が出された。最後の全体発表では、他の分科会の意見に対して笑いや拍手が起こるなど終始和やかな雰囲気での開催となった。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

- ① 会津若松市の現況、市民意識調査について(日本経済研究所 鈴木)
  - ・長期人口の推移、人口の社会増減と自然増減、人口動向、会津若松都市経済圏、産業動向(製造業、地場産業、商業、観光)、土地利用などについてデータを用いて説明
- ② 質疑等
  - ・会津はひとつと考える人が多い。会津若松都市圏ではなく会津都市圏ということでもっと広域で分析してはどうか。
  - ・林業や農業の分析も必要ではないか。 など



##### (3) グループワーク(日本経済研究所 鈴木)

###### <グループワークの手順>

- ① 「まち(会津若松)の良いところ」について、各自意見を出す
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定
- ③ キーワードを踏まえて、進行役がランダムに指定したアピール対象(大阪のおばちゃん、小学校高学年、地元の高校生、欧米系外国人、東京のセレブ主婦)に対してアピールする方法について、各自意見を出す
- ④ 出された意見をグルーピングし、アピールする方法について協議



### グループワークの成果 第1分科会「ふくし」

- アピール対象：大阪のおばちゃん

- ・主なキーワードは、人柄、観光、施設の充実、自然環境、産業。
- ・大阪のおばちゃんは、お得に弱い。多くの商店をめぐるイメージ。
- ・正しい情報を伝えることが大切。
- ・会津の男らしさでPR。無料クーポン付情報誌作成等。

### グループワークの成果 第2分科会「ひとづくり」

- アピール対象：小学校高学年

- ・主なキーワードは、観光、歴史伝統、食べ物、自然、災害、人柄。
- ・関東圏で会津に修学旅行に来たことのない小学校に営業をする。
- ・小学校高学年にわかりやすいよう紙芝居、おきあがりこぼしなどで興味をもってもらう。
- ・1泊、2泊の体験ツアー。地球儀、空気・土・水、歴史年表などの利用。

### グループワークの成果 第3分科会「しごとづくり」

- アピール対象：地元の高校生

- ・主なキーワードは、食、観光、生活基盤。
- ・高校のLHR（ロングホームルーム）の活用。菜園で育てたものを食べるなど。
- ・日光などの他の観光地に行って地元と比較。
- ・会津まつりの日は休講にする。白虎隊剣舞。



## グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

### ● アピール対象：東京のセレブ主婦

- ・主なキーワードは、食、自然、歴史。
- ・クイーンエリザベスよりも会津のプレミアムツアー。あなただけの、プレミアムな一年を通じた、オーダーメイドのツアー。(500万円)
- ・四季を通じ、食、歴史等を体験。酒米種まき、酒づくり、スノーダンプ雪かきなど。
- ・仕込んだ酒が飲めるのが来年になるので翌年も来訪してもらい、最終的に半定住を促す。

## グループワークの成果 第5分科会「きょうどう」

### ● アピール対象：欧米系外国人

- ・主なキーワードは、安心、食、環境、景観、人柄、アーケードのある商店街。
- ・文字、映像等でのPR。在外邦人の活用。
- ・来訪した外国人にさらに情報発信してもらうことが重要。
- ・人とのふれあい、人柄を知ってもらうためにゲストハウス、シェアハウスに宿泊。

### (4) 全体講評 (日本経済研究所 鈴木)

会津の良いところとして、安心、食、人柄、商店街、観光、生活基盤、歴史、医療福祉、自然、環境、景観、などが挙げられた。  
これらの良いところを踏まえ総合計画につなげていってほしい。

### 2. 事務連絡 (企画調整課 佐藤課長)

### 3. 閉会 (企画調整課 佐藤課長)

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第3回	平成27年7月1日(水) 18:30~20:30	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	私が考える理想のまち	34名

「私が考える理想のまち」をテーマに、事前に委員が作成したワークシートをもとに分科会ごとに議論をおこない、委員の意見をまとめて「目玉政策」を提案した。

グループワークでは、多様な意見が出され、真剣に議論が交わされた。様々な意見をまとめる過程で悩む場面もあったが、最終発表では、分科会ごとの特徴ある大きな方向性を描き出すことができた。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

- ① 「理想のまち」を考えるヒントについて(日本経済研究所 鈴木)
  - ・「理想のまち」を考えるヒントとして、理想のまちを考えるための視点、地方創生について説明し、事例研究としてフィンランド型福祉の考え方を紹介。
  - ・事前作業が出来ていない委員はこの間に「私が考える理想のまち提案シート」を記入。
- ② 質疑等
  - ・特になし



##### (3) グループワーク(進行役:日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① 「私が考える理想のまち」について、各自事前作業内容について発表
- ② テーマの類似性に従い各自の用紙をグループ分け
- ③ 自分以外の発表で関心のあるテーマについて、理由とともに発表
- ④ メンバーの関心が集まったテーマを参考に、各分科会の目玉政策(重点政策)を選定
- ⑤ 模造紙に目玉政策を記載(テーマ、期待される効果、具体策)



## グループワークの成果 第1分科会「ふくし」

<テーマ>医療・福祉・介護が連携したまちづくり

<期待される効果>子育てしやすくなる／シニアが元気になる／障がい者が安心して生活ができ、観光できる／雇用の場が増える／医療利用者の意識改革

<具体策>

- ・ 幼老施設（新たな産業創出、かつ子育てもしやすくなる）
- ・ 健康ポイント制の導入（健康長寿のインセンティブ）
- ・ 除雪ロボットの開発（産学官連携、新産業の創出、雪は会津地域で医療や介護の障害となっている）
- ・ 高齢者の呼称変更（高齢者の意識マインドチェンジ）
- ・ まち全体のバリアフリー（まち全体のバリアフリー化に取組み、バリアフリー観光地のアピール）
- ・ ボランティアの充実（安定したサービス供給、雇用の確保）
- ・ 定年の見直し

## グループワークの成果 第2分科会「ひとづくり」

<テーマ>誰でも安心して住めるまちづくり～子どもから大人まで～

<期待される効果>人口が増える／地場産業の活性化につながる／健康長寿

<具体策>

- ・ 他県の成功例を参考にする
- ・ コミュニティセンターの活用（公共施設）
- ・ 地場産業を勧める
- ・ 世代間交流

## グループワークの成果 第3分科会「しごとづくり」

<テーマ>会津らしさのPR～会津らしい仕事づくり～

<期待される効果>

今ある資源づくり／既存資源の有効活用／仕事生まれる

<具体策>

・ 「見える化」を行う。①観光産業、②伝統産業、③林業、④IT

会津らしい資源は、市民ですらどこに何があるかわからない状況。市民が自分たちの地域の資源に気づき誇りがもてるようにする。

## グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

<テーマ>幸せで楽しい会津、いきいきとしたまちづくり、そのためにまず大人がいきいきとするまち

<具体策>

まず、一人ひとりが意識をもって自分たちの街をじぶんたちで楽しくしていく。大人が生き活きとすることを地域の土台として地域の資源の活用や個性を研ぎ澄ませていく。

## グループワークの成果 第5分科会「きょうどう」

<テーマ①>コミュニティ（ネットワークづくり）

<具体策>

- 社会資源による協働
- 連携と交流・助け合い
- 人材育成（発掘）

<テーマ②>会津大学（シリコンバレー）

<具体策>

- 企業誘致
- 企業支援
- 地産地消

この2つのテーマが達成されることで、経済効果が生まれ、会津に戻る学生も増える循環ができ、「住む人が生き生きするまちづくり」を行うことができる。

### (4) 全体講評（日本経済研究所 鈴木）

メンバーの互いの意見を踏まえつつ、よくまとまった。今後は、分科会の枠を超えてまとまっていくことで、総合計画につなげていってほしい。

### 2. 事務連絡（企画調整課 佐藤課長）

### 3. 閉会（企画調整課 佐藤課長）

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第4回	平成27年7月29日(水) 18:30~20:40	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 研修室2、3	女性が住んでみたい、住み続けたいまち	34名

市が次期総合計画の重点政策テーマとして想定している「女性が住んでみたい、住み続けたいまち」をテーマに、各分科会の視点から、会津若松市の現状や取組、将来に向けてチャレンジしていく(すべき)ことなどについて話し合った。

グループワークでは、テーマが難しいとの意見もあったが、委員の経験や実感を踏まえた議論が交わされ、最終発表では、分科会ごとに特徴ある政策のストーリーが提案された。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

- ① プログラム内容について(日本経済研究所 鈴木)
- ・「女性が住んでみたい、住み続けたいまち」とは、誰かが暮らしにくいまちではなく、誰でもが暮らしやすいまちであり、特に女性の暮らしやすいまちである。

② 質疑等

- ・対象とする女性の年代はあるか。また、まちというのは、郊外か、中心部か。

→自由に考えていただいてよい。(日本経済研究所)

→状況の設定についても自由に意見していただきたい。(市)



##### (3) グループワーク(進行役:日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① 各分科会の視点から考える「女性が住んでみたいまち、住み続けたいまち」について、各自の意見を発表
- ② 各自の意見を、1. サービス・機能・施設等の充足状況、2. 1の中で、会津若松が優れている、特色がある、充実している事柄、3. 1の中で、改善が求められる取組み/新しい政策提案、4. 会津若松として、らしさをだすために、今後チャレンジすべき取組みの4つに分類しポストイットを貼付
- ③ 各分科会において政策のストーリー建てについて協議  
以下の質問、答えのイメージで政策のストーリーをまとめる。  
質問: 会津若松市はどのようなまちですか?  
答え: 「女性が住んでみたい、住み続けたいまち」です。なぜなら、会津若松市では、1. のような点が優れています。特に2. は、会津若松市ならではの取組みと考えられます。また、今よりもさらに良くなるように3. のような取組みを行っています。4. は会津若松市独自のチャレンジです。

### グループワークの成果 第1分科会「ふくし」

- ・現状として、1.医療介護・福祉施設が充実している、2.自然豊かな環境である、3.交通機関が充実している、4.総合商業施設があるという良いところがある。
- ・女性が仕事を継続することが可能であり、高齢者が安心して住める。幼稚園・保育園が多いので待機児童もゼロである、スポーツジムや高齢者の運動などが盛んでありコミュニティも充実しているという会津若松らしさがある。
- ・将来努力するものとして、除雪がある。除雪についてはスノーバスターズの活動もあるがより取り組む必要がある。会津独特の閉鎖的な部分があり、他の地域から来た女性になじみにくいときく。他の地域から移り住んだ女性の交流の場としてサロンづくりをする。
- ・将来の取り組みとして、女性初代市長の誕生を目指す。会津には多くの女性先駆者がいるので、その承継教育、母子家庭の就労教育をおこなう。歴史的ポイントをもっと宣伝し、楽しんで歩けるまちづくりをする。会津伝統文化のおしゃれなまちづくりをする。

### グループワークの成果 第2分科会「ひとづくり」

- ・ひかえめかつ夢をもって考えた。
- ・住みよいポイントは、自然が豊かで人の優しさがあるところである。
- ・優れている特色としては、自然が豊かで季節感があるところ、会津大学があるところ、産科・小児科が人口の割に充実しているところがある。
- ・改善が求められること、新しい政策として、中学までの学校の無料化、会津大学を総合大学にする、映画館、美術館をつくる、夫・妻の安定した収入をつくる。
- ・チャレンジすべき取り組みとして、会津らしい体験ができるテーマパークをつくる。食、子どもの遊び、地産地消、教育、女性らしさなど。

### グループワークの成果 第3分科会「しごとづくり」

- ・会津若松市は、医療が充実しており、生活費が安く、暮らしやすい、子育てしやすいまち。
- ・特に、18歳までの医療費が無料であり、小・中・高の授業料が無料。こどもクラブも多くある。
- ・今よりさらに良くなるために、保育園・幼稚園も無料化する。施設の拡充により、仕事も生まれる。マイナンバー制度も始まるため、その人にあった情報提供をする。良いまちにひとりではもったいないので、婚期の人を集めて、縁結びのマッチングを拡大する。仕事のマッチングを行う。
- ・会津若松市ならではのチャレンジとして、子育てにかかる費用をすべて無料化する。子ども時代は会津で過ごし、若者は東京に出て、子育て世代になれば会津に戻り、老後まで会津で過ごす。会津に戻ってきたときの受け皿となる仕事をつくるために、1・Uターン企業支援、介護事業などへマッチングする。また、何でもよいので女性の世界一になった方に賞金を出し、賞金ハンターの仕事をつくるというアイデアも出た。

## グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

- 世界に向けて発信する「みんながくらしやすいまち」を前提に考えた。
- 隣近所の顔がわかる、地域の包容力がある、健康を気遣う地物の食べられる店が多い、呑んべえ横丁が足りているという点が現状の優れている点である。
- 現状から考える将来像として、公共施設やイベントの際に託児所（ソフト・ハード）を整備すれば、女性が参加しやすい。地下駐車場があれば、雪を気にせずに子連れで外に出られる。女性も入りやすい飲み屋、惣菜横丁があればよいのではないか。
- 会津らしさとして、食、会津もめん、うるしのアクセサリー、七日町、ならぬものはならぬという点などがある。
- 会津らしさを出すチャレンジとして、重要なのは「個性」。都会を目指さず、東京を意識しすぎない、裏通りの魅力のある、きれいにしすぎず隙があるようなまちづくりをする。空き店舗の活用をする。給食の器をうるし塗の器にするなど、うるしの器を日常使いしてはどうか。

## グループワークの成果 第5分科会「きょうどう」

- 現状、優れている点は、三世代同居が多く女性が働きに出やすい環境があることである。
- 会津らしさとして、飲食店や農業など、副業の機会がある。特に、飲み屋が多いため、女性の仕事の機会がある。
- さらに良くなるためには、若い世代や女性のコミュニティへの参加、男性の就労時間を減らす、休暇を取りやすくするなどの労働条件の向上、家族で遊べる施設の充実をす



### (4) 全体講評（日本経済研究所 鈴木）

難しいテーマに対して、具体的提案があったことがよかった。分科会ごとに話し合いを深め、具体的政策の提案の総合計画への反映を検討していただきたい。

### 2. 事務連絡（企画調整課 佐藤課長）

### 3. 閉会（企画調整課 佐藤課長）

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第5回	平成27年8月25日(水) 18:30~20:30	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	人と人とのつながりの再生~地域の活力、コミュニティの再生~	23名

市が次期総合計画の重点政策テーマとして想定している「人と人とのつながりの再生」をテーマに、「出会い」をキーワードに、人と人との出会い、人と物、企業と企業、伝統工芸と最先端技術など、様々な「出会い」から生まれる施策やプロジェクトについて協議した。

出席委員数が少なかったことから、グループワークは、A、B、Cの3グループにランダムに分かれて実施した。第4回までのグループワークと異なるメンバーでの実施となったこともあり、新鮮な雰囲気での開催となった。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

###### ① テーマ設定の背景(企画調整課 佐藤課長)

・市は人口ビジョンで交流人口を含めた人口10万人の維持を目指すこととしている。そのような背景もあり、今回のテーマを設定した。

###### ② プログラム内容について(日本経済研究所 鈴木)

・新たな出会いの場「会津」がキーワードである。  
・会津の地名の由来は、神話で親子が「出会った場所(相津)」であるという故事がある。

###### ③ 質疑等

・全体のつながりについて教えてほしい。→前回、今回、次回は横串で取組や施策の意見を出していただいている。次回までが総合計画のための市民の方の知恵を出すステージであり、次々回以降は、市職員も参加して意見交換をおこない、とりまとめとなる。(日本経済研究所)



##### (3) グループワーク(進行役:日本経済研究所 鈴木)

###### <グループワークの手順>

- ① 各自の考える「出会い」について、各自の意見を発表
- ② 類似している意見を分類しながら、人と人とのつながりについて適宜議論
- ③ グループごとに「出会い」をモチーフとした取組について協議





### グループワークの成果 Aグループ

- 観光、歴史文化、会津大学に分けて当初話し合いを実施。
- 観光、歴史文化については、外に向けての発信も大切だが、会津の人間が歴史文化を知らないということがあるので、内の人に向けての発信も重要と考えた。
- 会津大学については、技術面での出会い、学生と地域との出会い、農業とITとの出会いなどの意見が出た。会津大学を活用できていないので、活かしていくことが重要。
- また、最後に世代間交流が重要と考えた。高齢者と子どもの出会い、ハンディキャップのある人との出会い、隣人との出会いなどである。
- 十分に生かし切れていない資産を活用して、県外や国際的にも交流していくことが重要。

### グループワークの成果 Bグループ

- 出会いとして、漆・漆器業界や和ろうそくなど業界の人同士の人の出会いや、イベントでの出会い、高齢者と子どもの出会い、地域の中での出会い、空き家・古民家を利用した出会い、会津大学とのつながり、自然との出会いなど様々な意見が出た。その中でも、特に歴史・文化があり、利用されていない資源として「御薬園」に注目して考えた。
- 御薬園は、薬園といいながら、薬草が植えられておらず、薬膳料理を食べられるわけでもない。そこで、薬膳をもっとPRしてはどうか。薬草園を作り、薬膳料理を出し、漆器や会津本郷焼に乗せて提供してはどうかと考えた。御種人参、酒も薬膳となる。
- 県立医科大学の漢方専門家との連携も考えられる。生産者をフューチャーすることで生産者と観光客、地域の人同士のつながりも生まれる。自然との出会いの場として体験学習もできる。伝承により、高齢者と子どものつながりも生まれる。

## グループワークの成果 Cグループ

- 観光、人、食、伝統、情報、その他というカテゴリーで出会いについて議論した。
- すべてのカテゴリーで、出会うとイノベーションがおこると思う。とはいえ、「知らないとどうしようもない」、知らなければ出会えないため、特に情報と人との出会いが重要である。
- 出会った後も大事であり、会津三泣きというが、一回目に泣かせてしまってはしかたない。最初に良い思いをして出会っていただくことが大切である。

### (4) 全体講評（日本経済研究所 鈴木）

Bグループは、地域資源を生かしてつながりを生むストーリーであり、御薬園以外の他の資源も同様に考えることが可能だろう。Cグループは「知らなければ出会えない」との意見であったが、どのように知ってもらうかは施策として重要である。Aグループは世代間交流を取り上げられたが、会津の中のつながり、外とのつながりを考えるストーリーであった。いずれのグループも具体的な良い提案であり、会津の力、市民意識の高さを感じた。市民の方のアイデアをぜひ総合計画案に盛り込んでいただきたい。

### 2. 事務連絡（企画調整課 佐藤課長）

### 3. 閉会（企画調整課 佐藤課長）

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第6回	平成27年9月30日(水) 18:30~20:30	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	「ストップ人口減少」～生産年齢人口、交流人口の増加に向けた取組～	26名

「人口」は、まちの状態を測る指標として重要であるだけでなく、今後のまちづくりを考えるうえで不可欠なテーマであることを認識・共有し、これまでに発言されてこなかった意見を含め、活発に意見交換が行われた。また、今回で委員の方々から意見を広くご提案頂くグループワーク形式での開催は最後となり、次回以降は第7次総合計画策定に向けた市との協働作業となることもあり、いつも以上に熱気溢れる雰囲気での開催となった。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

###### ① プログラムの趣旨説明(企画調整課 佐藤課長)

・グループワーク形式は今回が最後であり、次回以降は市民と市が協働し、議論することになるため、これまでに出不された意見を含めて活発に意見交換してほしい。

###### ② プログラム内容について(日本経済研究所 鈴木)

・「人口」はその地域の活力を示すものの一つである。

・小さい町であったり、交通機関が不便であったりしても、市と市民が協働することで社会増を達成している町もあり、本テーマは非常に重要なテーマである。



##### (3) グループワーク(進行役:日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① 各自の考える「ストップ人口減少」に対するアイデア・対策について、意見を発表
- ② 類似している意見を分類し、適宜議論
- ③ グループごとに「ストップ人口減少」に向けた取組について協議(取組内容のレベル分け)



### グループワークの成果 第1分科会「ふくし」

- 福祉は、まず人が増えることによって充実が図られるものである。したがって、まずは人が増えるための施策に取り組むことが重要であると考えた。
- 人口増加のために住みやすい環境をつくり、新しい産業を興せる町を目指したい。
- 高齢者の方々が健康寿命を伸ばし、元気で暮らせる町を目指したい。市の方には、ぜひ健康ポイント制を導入してもらいたい。
- 子供を増やすために、ひとり親への経済的支援や婚活の充実を図ってほしい。
- 生活環境をよくするため、地域内交通手段の充実や若い人を定住させるために専門学校を整備してほしい。
- 農林業中心のコミュニティを作ることで人を呼んだり定着を促したりできるのではないかと考える。

### グループワークの成果 第2分科会「ひとづくり」

- 現状維持ではなく、少しでも人口が増えるようにという思いで話し合いを行った。
- まずは女性が子どもを産みやすく、子育てしやすく、かつ働きやすい環境を整えたい。
- 現在、多くの商店が店じまいしてしまっており、若者が就労する場所が少ない。企業誘致を行うことも一つの手段ではないか。
- 会津は観光のみどころがあるので、教育旅行の推進や農家や民家の民泊振興も有効であると考えます。観光を通じた交流人口増加に向けた取り組みが必要。
- 会津大学は県立であるので、県議会や県知事への働きかけによって総合大学になることも若者の選択肢が増え、人口増につながるのではないかと考える。

### グループワークの成果 第3分科会「しごとづくり」

- 年代別に人口を増加させるための方策を検討した。一番増えてほしいのは若者：22-30代と子育て世代：30-60代と設定した。ここが増えなければ、他の年代が増えないと考えるからである。
- 22-30代の若者は、1度地域外に出て、色々なものを得てから戻ってくるようにしていきたい。そして、会津に逆輸入（戻ってきてもらい）して、起業をしてもらうなど新たな仕事が展開されることで雇用が増え、それがループするような形を作っていきたいと考える。

#### グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

- 訪問者は会津らしいところに居住したいと考えている。  
そういった考えにマッチした空家はあるのに、借りることが難しい。また滞在コストも高い。このような受け入れ体制では、社会増とすることは困難ではないか。  
周りには、会津でゲストハウスを運営したい学生がいるのにもかかわらず、物件が提供できていない状態である。
- ひとを増やすために居住環境や受け入れ環境を整えることは重要であると考えます。  
したがって、空家の問題は早急に解決に向け取り組んでもらいたい。
- その他、重要であるのは大きくわけて「景観」「人」に関する取り組みに重点を置くことが重要であると考えた。  
空家を含め古い町並みは景観として残すべきである。まず、町に清潔感があることは人を呼びこむうえで重要な要素であると考えます。
- また、そこにいる人が訪問してくれる人を温かく迎える気持ちを持つことが大事である。

#### グループワークの成果 第5分科会「きょうどう」

- 人口増には、「地域コミュニティ」「子育てしやすいまち」「地域産業の活性化」が重要であると考えた。
- 「地域コミュニティ」については地域に人材のばらつきがあり、核となる人も不足している。したがって、地域内でお互いに支え合うネットワークを作ることが大切である。その一つの対策として、市職員が期限付きで地域のコミュニティづくりに積極的に関与することはどうか。
- 「子育てしやすいまち」については、男性の残業時間を減らしたり、有給を取りやすくしたりすることで子育ての男女共同参画を推進する。  
子供を地域で育てるという意識をもつことが重要である。
- 「地域産業の活性化」については地場産業の価値をあげること、地産地消を進めること、情報発信が考えられる。
- 小さな歯車を回すことで、市全体で大きな利益を得られるように一つずつ取り組んでいきたいと考える。

#### (4) 全体講評（日本経済研究所 鈴木）

多方面からあらゆる意見が活発に交された。今後は市と市民が同じ地域にいるものとして、一丸となって社会増に向けて取り組んでいくことが重要と感じられた。その際には、各分科会が協力・連携することが大事である。

「ふくし分科会」は、町が豊かになることで福祉が充実するという発想が素晴らしい。こういった背景で市が施策に取り組むか、これを議論したうえで福祉の視点からの人口増施策を盛り込み充実させていく必要がある。

「ひとづくり分科会」は、どういう人を作るか、ということも重要であるが、産業振興と連動した人づくり（人材教育）を行っていくべきであるという考え方に注目した。人を受け入れる際には、会津のアイデンティティの意識を共有できることが重要であり、そうした人が集まるように取り組むことが求められる。

「まちづくり分科会」では、空家について具体的な指摘ができたが、これに関しては早急に、改善に向け取り組むべき点である。住みたい人が住めない現実があると分かった以上、すぐに行動すべきである。空家については、所有者と市の協力が必要であり、取り壊すよりもそこに住んでもらえるための関係者全員がハッピーな世界をどのように作っていくかが大事である。

「きょうどう分科会」は、青年会や婦人会といった既存の地域コミュニティの活性化の重要性を指摘している。「小さな歯車で大きな利益を得る」というのは、まさに協働の精神であり、小さな活動が少しずつ重なり合っていくと考えている点が重要である。

「しごとづくり分科会」は、年代別でしごとづくりを考えた点が良い。ただ、子育て世代：30 - 60代が増えると子供が増えると短絡的に考えるのは気を付けるべきである。結婚をしないという選択肢も考えられるからである。つまり、仕事づくりに加えて、他の分野の充実も図られるべきである。

多様な世代が住みやすいまちづくりを考えるとなおよいと考える。

#### 2. 事務連絡（企画調整課 佐藤課長）

#### 3. 閉会（企画調整課 佐藤課長）

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第7回	平成27年10月28日(水) 18:30~20:40	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	「with市役所」(1回目)	28名

市民会議のメンバーと市の職員が一堂に会し、4つのテーマに沿って意見交換を行った。テーマは、これまでの市民会議で提案されたご意見をもとに「アクティブシニアの活躍による地域の活性化」「空き家・古民家の活用とまちの活性化」「子どもたちが会津を好きになる取組」「冬の会津の克服と活性化」とし、市の職員が考えた取組みを発表した。

その後、5つの分科会に市職員が参加し、テーマに沿って意見交換をおこなった。当初は遠慮がちだった委員も、最後に市職員と相互に率直な意見交換をおこなっており、活気ある雰囲気での開催となった。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

- ① プログラム趣旨説明(企画調整課 佐藤課長)
  - ・今回は、市職員が4つのテーマについてアイデアを発表し、各グループに分かれて意見交換をする。
  - ・4つのテーマはこれまでのあいづ創生市民会議で出された意見を踏まえて設定したものであり、発表する検討内容は、市の職員がワークショップを行ってまとめたものである。



##### (3) グループワーク(進行役: 日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① テーマごとに、市の職員がワークショップで実施した検討内容について全体発表
- ② その後、5つの分科会に市職員が8~11名参加し、テーマに沿って意見交換



(4) 全体講評（日本経済研究所 鈴木）

全てのグループで白熱した意見交換がなされていた。市の職員と市民が車座になって直接意見交換をおこなう機会は貴重であり、素晴らしい。次回さらによい意見交換の場とするためには、①目的（何のための政策か）を意識すること、②会津ならではの、会津らしさに着目すること、③行政の用語はかみくだいて共有すること、の3つに気を付けていただくとよいと思う。

2. 事務連絡（企画調整課 佐藤課長）

3. 閉会（企画調整課 佐藤課長）



### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第8回	平成27年11月11日(水) 18:30~20:20	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	「with 市役所」(2回目)	18名

市民会議のメンバーと市の職員が一堂に会し、委員が話したい分野を担当する市の職員(課長)が座っているグループへ移動し、対話をおこなった。市職員と市民委員の間で活発に質問や意見の応酬がなされ、会場内は熱気に包まれた。

まだ話し足りないという雰囲気の中での終了となったが、市の職員からは直接市民と意見交換する機会には有意義であり今後も継続して市役所を訪ねてほしいとの意見が出た。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

###### ① 趣旨説明(企画調整課 佐藤課長)

・プログラム前半では、市に質問したいことの中から、「地方創生」「スマートシティ」の取組について全体に説明する。後半は、参加者のみなさんが、質問をしたい課の担当者がいるグループに分かれ、討議をしていただく。多くの参加者の意見をきけるようにしたい。

###### ② 取組説明(企画調整課 五十嵐主査)

・会津若松市の「地方創生」「スマートシティ会津若松」の取組について全体に説明



##### (3) グループワーク(進行役: 日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① 委員は、事前に「話してみたいこと」を提出
- ② 市職員が分野ごとに5つのグループに分かれて着席
- ③ 市民会議参加者は話したいテーマに応じて、テーマを担当する課長のいるグループに移動し、討議。(フリーセッション×2回)



(4) 全体講評（日本経済研究所 鈴木、企画調整課 佐藤課長）

市職員と市民が膝を突き合わせて話すこのような試みは素晴らしい取り組みである。市民の方々は言い足りないこともあったかもしれないが、このような市の取り組みを前向きに評価してほしい。市職員にとっても、普段自分たちが実施している施策について直接市民の意見を聞くことができた良い機会であったとも思われる。市と市民は、同じ地域のメンバーであり、これから一緒に良い地域をつくっていく時代であり、今回の取り組みを総合計画策定に是非生かしていただきたい。会津若松市を地方都市の典型的な姿と考える現状認識は間違いではない。しかし、そのままよいということとは違う。せっかく取り組むのであれば、もう一段上を目指していただきたい。これまでのワークショップで会津若松市には多くの良いところがあることが認識されたはずである。会津らしさ、強いところを伸ばす視点を持ち、夢を語り、施策を進めることで、会津は典型的な地方都市ではなくなっているはずである。（日本経済研究所 鈴木）

委員の方に、市に質問したいことを事前にお知らせいただいたが、その中に、市役所からみた得意なところ、苦手なところ、会津若松市が断トツで優れていると思うところが知りたいという質問があった。こういう意識を持って、市職員は施策に取り組んでいきたいし、また、市民の皆様も是非一緒に取り組んでいただきたい。市民のみなさんは、時間の関係で話し足りないところもあったかと思うが、今回各課の市職員と直接の知り合いになったので、是非市役所にも来ていただければと思う。（企画調整課 佐藤課長）

2. 事務連絡（企画調整課 佐藤課長）
3. 閉会（企画調整課 佐藤課長）

### Ⅲ. あいづ創生市民会議の議論概要

	日時	場所	内容	出席委員
第9回	平成28年1月13日(水) 18:30~20:20	生涯学習総合センター(會津稽古堂) 多目的ホール	まちづくりのコンセプト(キャッチフレーズ)提案	16名

第8回までの議論を踏まえ、まちづくりのコンセプト(キャッチフレーズ)について意見交換をおこなった。

グループワークは、出席委員の数が少なかったため一部の分科会では共同で実施した。基本計画の大きな方向性を示すテーマであったこともあり、各グループともに真剣な表情での協議となり、それぞれの分科会らしいコンセプトやキャッチフレーズが提案された。

#### 1. 議事

##### (1) 開会(企画調整課 佐藤課長)

##### (2) 配布資料説明

###### ① 趣旨説明(企画調整課 佐藤課長)

- ・まちづくりのコンセプトやキーワードをアイデアとして出していただき、総合計画の中にキーワードやテーマとして組み込むことを想定している。

- ・現在は、これまでに皆様からご意見いただいた内容をもとに次期の総合計画づくりをすすめている。本計画は、本年9月を目途に、議会に提案予定。



###### ② プログラム内容について(日本経済研究所 鈴木)

- ・作業内容について説明。

- ・説明を聞きながら、事前に用意してきたキーワードやキャッチフレーズについて各自ポストイットに記入。

##### (3) グループワーク・講評(進行役: 日本経済研究所 鈴木)

#### <グループワークの手順>

- ① 各自が事前に用意してきたキーワード、キャッチフレーズを発表
- ② 分科会ごとにキーワード、キャッチフレーズを分類
- ③ 各分科会のキャッチフレーズを選定
- ④ まちづくりのコンセプト(計画全体)と基本ビジョン(分科会)について協議



● まちづくりのコンセプト（計画全体）

<キーワード>

「会津らしさ（歴史・文化・土地柄・人・風土）」「神社仏閣」「長い歴史」「災害が少なめ  
安心してらせる」「歴史・自然・伝統文化の担い手」「地域の担い手不足（消防団）」「後継  
者不足」「過疎化→限界集落 耕作の放置」「都会から人を戻す」「少子高齢化→人口減  
少」「高齢者の空きや問題」「住んでいる人来てくれる人、皆が思うことしてほしいこ  
と」

<キャッチコピー>

「冬の雪を楽しもう」「古いけど新しい」「古いからやさしい」「自給出来る自然エネルギ  
ーの里」「会津のブランド 会津のプライド」「自然も人もやさしい仏都会津」「災害少な  
く安心生活」「自然災害が少ない」「泣きたいくらい大好き！会津若松」「担い手 人が集  
まる」「歴史・文化を尊び、先人の知恵に学び、新しい未来を共に造る」

<まとめ>

● 基本ビジョン（分科会）

<キーワード>

「ケアシステム、成年後見制度、病院等の充実」「生まれてから死ぬまで安心」  
「人にやさしい」「となりもまちも助けてくれる」

<キャッチコピー>

「高齢者が安心生活出来る町」「歴史部会仏都会津」「ひとりぼっちにしない町」  
「ハンディーキャップにやさしいまち」「心があったかい、ぬくもりあふれる会津若  
松！」  
「自然がやさしい シニアも用事も安心生活」「一人一人の願いにみんなで答えるまち」  
「一生安心して暮らせるまち」「一人はみんなのために みんなは一人のために」「声をあ  
げれば応えてくれるまち」「手を伸ばせば届くふくし」「みんなの願いに答えられるま  
ち」「身近な優しさあふれる会津若松」

<まとめ>

「一人一人の願い みんなで考えるまち 応えるまち 叶えるまち」

・ふくし分科会への講評（日本経済研究所 鈴木）

ふくし分科会は、誰か限られた人が取組むのではなく、地域の人々が助け合いな  
がら一緒に行うことの重要性の観点からまとめており、それを実現する街づくり  
の方向性が示されていると感じた。まさにふくし分科会らしいまとめ方である。

## グループワークの成果 第2分科会「ひとづくり」

※「まちづくり」分科会と合同で実施

### ● まちづくりのコンセプト（計画全体）

<キーワード>

「歴史のある町」「希望」「楽しい」「地域の活性化」「自然と歩む（ゆっくり）」

<キャッチコピー>

「行政も市民もみんなでまちづくりお手伝い」「“しん”を求めて会津若松市」「“しん”がある会津若松」

<まとめ>

「温故創しん 会津若松」「清」「進」「芯」「信」「深」心「真」など

### ● 基本ビジョン（分科会）

<キーワード>

「みらい」「人にやさしい」「大人が子どもにバトンタッチ」「自然の中で遊び学ぶ」「ひとづくりは教育から」「家庭があつまってまちになる」

<キャッチコピー>

「温故創しん会津若松」「まちづくりは人づくり」「あなたの未来のかがやける会津若松市」

<まとめ>

「会津の歴史・文化・伝統を次世代に伝えよう」「文化・芸術を育むまちづくり」「伝えたい」

・ひとづくり分科会・まちづくり分科会への講評（日本経済研究所 鈴木）

2つの分科会で考えられた「温故創しん 会津若松」というまとめは、見る人に色々なことを考えさせるとても良いキャッチコピーであると考えます。「しん」を平仮名とすることで、個人によって様々な意味合いの会津らしさが考えられる。

「ひとづくり」と「まちづくり」は表裏一体であり、こうした考えをもとに、今後、会津の地域の人がどの様に考えながらまちをつくっていくのか、大きな期待を寄せています。提案された意見（要素）は、「しごと」も含んでおり、それぞれが関係し合うことでまちが一体化し、活性化につながる事となる。

● まちづくりのコンセプト（計画全体）

<キーワード>

「インターネット文盲率ゼロ社会」「コンパクトシティ」「インターネットの環境整備 Wi-Fi」「シェアビジネス建物を大学近くに作る」「会津の水資源が良いので水サミット」「人と人をつなぐ、インターネットによる温かいまちづくり」

<キャッチコピー>

「多様なみんなが協力、一緒に活動するまち 会津」「元気で夢のあるあいづわかまつ」「悠久の歴史と伝統 夢のある会津若松」「冬の華（花）でおもてなし会津若松」「春夏秋冬楽しめるまち 会津若松」「また来たい会津」「昔の水が流れている会津水路」「地域の祭りに参加する」「やあやあやあと手をつなごう会津」

<まとめ>

「賑わいと感動のまちあいづわかまつ」「市民一人一人が参画しつながるまち」「市民全員参加の町づくり」

● 基本ビジョン（分科会）

<キーワード>

「会津の観光 インド」「インドから出資を募る」「インドへの情報発信」「情報発信が弱い」「観光ガイドコンシェルジュ育成支援」「知見・経験のあるアクティブシニアによる歴史文化勉強会、アクティブシニアの仕事としての観光ガイド」「雪まち体験、冬の会津体験」「観光情報発信（海外、若者に対して）」「地方納税制度の活用」

<キャッチコピー>

「(みんなが知らない) もう一つの会津」

<まとめ>

「感動」「情報発信」「四季折々感動が伝わるしごとづくり」

・しごとづくり分科会への講評（日本経済研究所 鈴木）

しごとづくりのキャッチコピーとして、「感動」と「情報発信」が含まれていることが素晴らしい。しごとを通して生み出された感動が相手に伝わることで、まちはより魅力的になり、人を呼び寄せることになる。キャッチコピーとして感動と情報発信が結び付けられると、良かった。

## グループワークの成果 第4分科会「まちづくり」

※「ひとづくり」分科会と合同で実施

### ● まちづくりのコンセプト（計画全体）

<キーワード>

「知ってもらう（地元の人に）」

<キャッチコピー>

「伝統が推進される会津若松」「温故創新する街」

<まとめ>

「温故創しん 会津若松」「清」「進」「芯」「信」「深」心「真」など

### ● 基本ビジョン（分科会）

<キーワード>

「明るいまち」「居心地がいい住みやすい街」「会津の食」「新しい事も積極的に取り入れ自由に発想が出来る」「個性を大切にするまち」「老若男女問わず楽しめる」「伝統ものづくり」「歴史を誇り大切にする」「伝統を重んじ誇れる」「地産」「地場産業」「地産地消」「普段高価なものは使えない」「街中に緑が多い街」「やらなければ残らない」

<キャッチコピー>

「夜明るいまち」「人がたくさんいるまち」「大きな公園」

<まとめ>

「あらゆる意味で人を明るくする」「笑顔」「コミュニケーション」「安全安心」「安心安全な街」「安心な遊び場」「安心・安全 明るいあいさつあるまち」

・ひとづくり分科会・まちづくり分科会への講評（日本経済研究所 鈴木）

ひとづくり分科会の講評を参照

## グループワークの成果 第5分科会「きょうどう」

### ● まちづくりのコンセプト（計画全体）

#### <キーワード>

「卒業旅行サービス」「JR とバスの夜の運行拡大」「水道料金定額システム」「外国人バックパッカー街中ステイ」「神明通り歩行者天国」「会津ランキング」「自然豊かな町」「子供たちの未来の為にいつまでも住み続けたい」「災害のない町 安心安全」「ストーリーのある観光」「安心・安全な町」

#### <キャッチコピー>

「市民が未来を創生できる町・それが会津若松」「人を育み、人にやさしい会津ブランド」「郷土愛」「市民一人一人が会津国当主」「笑顔でいっぱいあふれるまち」「住んでいて住んでみて良かったまち 会津」「健康長寿世界ーを目指すまち」「フリースタイル都市」「自然と共生」「世代間交流」「医療福祉の充実」「(場所・グループ) コミュニティの創出」

#### <まとめ>

### ● 基本ビジョン（分科会）

#### <キーワード>

「一人ひとりが活躍することで結果として協働のまちづくりになる」「目と目の対話とふれあう心」「心と心のキャッチボール」「価値を生む、役立つ」「世代間のバリアフリー」「意識のバリアフリー」

#### <キャッチコピー>

「協働による課題解決」「地域の支え合い、ネットワーク」「郷土文化をつくる」「シニア世代の交流」「社会資源発掘・活用による協働」「老若男女共同参画」「自らが動く!!」「ゆるいつながり」「それぞれの場所がある」

#### <まとめ>

「自分ひとりが参加しなくてもではなく、自分ひとりでも参加するまち」「会津若松地球規模バリアフリー計画」「郷土文化で地域を支え合うネットワークづくり」「個の活躍できるまち」

#### ・きょうどう分科会への講評（日本経済研究所 鈴木）

会津地域が目指す姿を、日本でも世界でもなく、「地球規模」で捉えた点が素晴らしい。「きょうどう」という言葉の漢字の当て方は、様々であると思うが、出された意見を見てみると、地域の皆が一人ひとり会津若松市民である自覚をもち、協力し合っていくことが示されている。「きょうどう」は、誰かと一緒に限らず、自分の行動がひとりのものであっても誰かのためになっていけば、「きょうどう」という考えが示されたことは素晴らしい。

### 2. 事務連絡（企画調整課 邊見副主幹）

### 3. 閉会（企画調整課 邊見副主幹）